

平成28年度第1回(社会福祉学・社会学・教育学・統計学)グループ合同委員会議事概要
社会福祉学教育FD/ICT活用研究委員会
CCC(社会学・教育学・統計学)グループ運営委員会

- I. 日時 : 平成28年8月2日(火) 13:00~15:00
II. 場所 : 公益社団法人 私立大学情報教育協会 事務局
III. 出席者 : 社会福祉学FD/ICT活用研究委員会 山路委員長、戸塚委員、天野委員、
井上委員(スカイプ参加)
CCC社会学グループ運営委員会 土屋委員、犬塚委員、干川委員
CCC教育学グループ運営委員会 舟生委員、三尾委員
CCC統計学グループ運営委員会 竹内委員、村上委員、今泉委員
事務局 井端事務局長、森下主幹、中村事務局員

IV. 議事概要

1. 出席議員の紹介

合同委員会開催に当たり、社会福祉学・社会学・教育学・統計学の出席委員の自己紹介が行われた。

2. 報告・検討の概要

(1) 平成27年度の事業報告

事業報告書により、昨年度開催の分野別アクティブ・ラーニング対話集会の開催結果が報告された。

社会福祉学・社会学・統計学グループ

- ・昨年度は10月と11月に委員会を開催し、12月に35名が参加して対話集会を実施した。
- ・話題提供は以下の3件を行った
 - ① 産学連携による「学生参加型」初年次教育の効果と課題
 - ② 知識を組み合わせることで問題発見・解決に取り組む分野横断型教育の提案
 - ③ アクティブ・ラーニングの体系化と教員の教育力養成、学修プロセス・成果の可視化を目指した改革戦略(映像による話題提供)
- ・対話集会で確認された主な意見は以下の通り

アクティブ・ラーニングのテーマ

- ① 初年次のPBLでは課題を考えさせ、そのなかで失敗を体験させることで授業の重要性と、真剣に学ぶ態度を身に付けさせることが必要
- ② 社会福祉の実習においては効果測定が難しく、評価が伴わない課題がある
- ③ PBLでは教員が過度に介入せず、失敗や修羅場を体験させることが重要であり、振り返りの時間を十分設定し学生に解決の道筋を探させることが大事である

教学マネジメントのテーマ

- ① アクティブ・ラーニングの組織的推進の課題は、徹底的な授業科目の見直しであり、教学全体で話し合い、改善に取り組むことが必要
- ② 国家試験対策に偏らない学位プログラムの編成、学生の主体性を確保する教育プログラムが重要

教育学グループ

心理学と共に10月と11月に委員会を開催し、12月に53名が参加して対話集会を実施した。

- ・話題提供は以下の2件を行った

① 社会との双方向授業で汎用的能力と専門能力を結びつける体験型学修の提案

② 汎用的能力と専門的能力の獲得に向けた教育プログラムの提案

・対話集会で確認された主な意見は以下の通り

アクティブ・ラーニングのテーマ

① アクティブ・ラーニングでは15回の授業全体をデザインし、目標や具体的な実施方法、時間配分などをシラバスで周知し、学修の進捗状況をモニタリングしながら進めることが重要

② 学生の負担を増加させないため、講義と事前・事後学修時間の明確化、反転学修の導入、短期集中型教育スタイルへの切り替えが必要であり、カリキュラムデザイン全体で考えることが重要

③ 知識の定着を図るには、教えることよりも学生同士による主体的な学修を通じて成果を発表させることが重要

④ アクティブ・ラーニングの評価としてルーブリックが考えられるが、評価の視点と基準を教員間で文書化・共有化し、評価基準を一致させる工夫が必要である

教学マネジメントのテーマ

① 教養教育と専門教育の連携が進んでおらず、まず教員間の連携から始めることが課題

② 上級生が下級生を学生目線で支援/助言するファシリテータは下級生の学びに効果があり上級生にとっても自らの学びの振り返りが出来る点で有効である

(2) 平成28年度の活動計画について

平成28年度は、「ICTの利活用を含むアクティブ・ラーニングの教育・学修方法と教学マネジメントの改善対策を研究するため、継続して分野連携による対話集會を実施することとし、特に体験事例から成功・失敗の原因と対策を整理するとともに、分野の壁を越えて知識を組み合わせる創造型教育の必要性、授業科目の統合化などの課題について理解の促進を図ることが確認された。

そのため、分野連携グループを再編し、「社会福祉学、社会学、教育学、統計学」の連携グループで研究することが確認された。

3. 本年度の進め方、話題提供・意見交換テーマなどについての主な意見

以上の方針を確認した後にフリーディスカッションで本年度の対話集會の進め方、話題提供・意見交換のテーマなどについて検討した。主な意見は以下の通り。

主な意見

- ・分野連携について、社会福祉学では介護福祉の分野が医学との「多職種連携」で取り組まなければならない時代に入っている。
- ・「災害への取り組み」にはすべての学問分野が必要であり、多くの分野と連携しなければ課題の解決ができない。
- ・「災害での分野連携」をテーマにすることは良いと思う。
- ・統計学においても災害は、損害保険の面で係わってくる。
- ・災害関係の専門家による話題提供も良いが、災害をテーマに大学の領域を越えていろいろな知識を組み合わせる授業をICTを利用して行うイメージも良いのではないかな。
- ・分野連携における学修を、教員も学生と共に学ぶアクティブ・ラーニングも良いと思う。
- ・現実的に存在している、問題意識を持とうとしない大学教員にいかに関与できるかも検討すべきではないだろうか。
- ・社会福祉において、他分野との連携教育で福祉の魅力を伝える話題、提言ができないだろうか。
- ・「防災」と「災害後の支援」をテーマとして取り上げ、知識を組み合わせた教育に関心の低い教員にどう働きかけるかを提言する場となれば良いのではないかな。
- ・教学マネジメントの視点から分野横断の連携教育は、教員中心の授業科目から、授業の統合・組み合わせによる学位プログラムにつながる。

4. 対話集会のテーマ、話題提供について

- ・「分野を越えた連携教育」
分野を越えないと解決できない「災害対策、復興支援、地域再生」などを共通の話題として、分野横断の連携教育について議論する。
- ・学問分野の連携によるICTを活用した分野横断発想型教育のモデルを提案する。

次回委員会までに、各委員は「分野横断の教育」についての構想メモを準備下さい。

5. 今後のスケジュール、次回合同委員会

今後のスケジュールは、第2回目の委員会を9月後半から10月に開催し、11月から12月に対話集会を実施。

各委員に日程の都合を伺い、第2回合同委員会を「10月1日(土)10時」に開催することとなった。

(開催場所：私学会館アルカディア市ヶ谷)